



あかね祭

劇団「ババーズ」の当茜会での初演は、2007年病院開設25周年である。今回は、老健開設25周年に当り再びお迎えすることが出来た。看板女優の松浦政子さん(90)は時々、「脚が痛いね～」とアドリブを入れて笑いを誘っていたが、実は病院通いの身を押して出演されていた。林団長からは後日、舞台の改善やライトアップなど大成功だったとのお礼のハガキを頂いた。



十月一九日、一気に寒さを帯びた中でのあかね祭は、大勢の人で熱気に満ち、老健やグループホーム、吾亦紅の利用者には刺激的な触れ合いとなりました。

ババーズの演劇では、元気に演じておられる姿に「楽しかった、また見たいわ」と笑顔で話して下さいました。

華やかなフラダンスでは、その姿にみとれました。かわいい保育園のみごとな太鼓では、一緒にたたく真似をする方いました。いつもは横になつて居る方も、「お尻が痛い」と訴えつつ「ここに居る」と云って最後まで見入っていました。

DVDを見ながら

DVDを見ながら、パーキンソン・ダンスという体操を実際に体験して頂きました。これは、パーキンソン病以外の方でも体験して「いい体操になる」と一生懸命に



取り組まれ、すつきりしたとの感想がありました。

展示コーナーでは、始めはなんとなく立ち寄っただけの方が、福祉用具を実際に使ってみることで「こんな便利なものがあるんだ」「これ買いたいわ」と話していました。

展示コーナー

自分の写真を見て、うれしそうに笑っている姿が多くみられ、きれいに飾られた展示をじっくり眺めている方が大勢いました。数日前から展示



ババーズ公演

されていたこともあり、外来にいられた方たちも、待ち時間のあいだ、興味深げに見ていました。当日は、今野先生

の写真館やバルンアートが一



幼稚園太鼓

層賑やかさを後押ししていました。

模擬店

天気にも恵まれたので、外にも設置されたテーブルを囲みながら、家族と一緒に食べる蕎麦は、こしがあつて風味があり美味しいと評判でした。「まるおか蕎麦愛好会」の蕎麦職人の方が打ち、その場で茹でたものです。食べた後に建物の周りをぐるりと散策される姿もありました。

また、鯛焼きとおはぎもお手ごろの値段でよかったとのことでした。

グループホームの利用者の中には、久々に息子さんに会われ寄り添う時間が持てました。帰り際に一言「達者でな」と声をかける光景もみられ

ました。また、他県から面会にいられた方もあり、なかなか会えない家族や知り合いと



そば作り

久しぶりに会える良い機会になりました。

普段落ち着きを保てない方が、催しものに見入ったり、身体の自由があまり利かない方がリハビリ体操と一緒に手を動かされたりするのを見



華麗なフラダンス

て、職員も驚きと発見のあつたあかね祭でした。

